

用語説明

	用語	内容
あ行	インセンティブ (いんせんていぶ)	指定管理料の加算額。市の指定管理者制度運用の方針に基づき、施設利用の増加が収益の増加につながらない施設について、利用者等の増加割合を物件費の増加に比例させて、指定管理料を加算する。 公立図書館は、図書館法(昭和25年法律第118号)17条の規定により、入館料その他図書資料等の利用に対するいかなる対価も徴収できないため、利用者の増加に応じた収入がない。そこで、貸出冊数の増加に連動して物件費の一部が増加するという考え方のもと、当該年度の個人貸出冊数が、当該指定期間の指定管理料の積算根拠とした3年間の平均個人貸出冊数と比較して10%以上増加した場合、積算対象物件費の10%を当該年度の指定管理料に加算することとしている。
さ行	セルフ貸出機能 (せるふかしだしきのう)	バーコードをスキャンすることにより職員を介さずに貸出手続きができる機能。受付カウンター脇に設置している端末を使用する。瑞浪市民図書館では、令和2(2020)年3月、図書館システム更新に伴い、館内OPAC(*)を導入した。 *OPAC(おぱっく、おーぱっく): オンラインでできる蔵書検索 Online public access catalog の略
	蔵書点検 (ぞうしょてんけん)	図書館で所蔵している図書資料があるべき場所に収まっているかどうかを確認し、行方不明のものがいないか点検する作業。瑞浪市民図書館では年1回、例年6月に実施している。分室の図書資料も含め、5日間程度かけて点検する。
は行	ブックスタート (ぶっくすたーと)	健診等の機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動。瑞浪市民図書館では、4カ月児健診に実施。絵本2冊・アドバイスブックレット1冊・プリント4枚(おなしのじかん・おすすめの絵本・ブックスタート・絵本の育児日記案内)を布製バックに入れてプレゼントし、対面で絵本の読みきかせをしながらブックスタートについて説明する。イギリス発祥の活動で、岐阜県では26自治体(絵本配布のみを含めると31自治体)で実施している(NPOブックスタートのホームページより)。
	ブックトーク (ぶっくとーく)	テーマに沿って複数の本の内容を紹介し、子どもたちに本や読書への興味を持たせ、家庭での読書活動につなげる活動。瑞浪市民図書館では、職員が小中学校へ出向き、児童・生徒を対象に実施している。 1冊の本を最初から最後まで読んで聞かせる読み聞かせとは異なり、その本の一番のおすすめポイントを見せたり聞かせたりして、子どもの「本を読みたい」という気持ちを引き出すもの。